

## 平成 19 年 3 月期 第 3 四半期決算のポイント

## 1. 実績について

(単位：億円)

|        | 連結    |        |     | 単体    |        |     |
|--------|-------|--------|-----|-------|--------|-----|
|        | 実績    | 前期比    | 前期差 | 実績    | 前期比    | 前期差 |
| 売上高    | 5,823 | 103.9% | 220 | 3,388 | 102.3% | 76  |
| 営業利益   | 267   | 102.5% | 6   | 179   | 101.7% | 2   |
| 経常利益   | 278   | 105.0% | 13  | 192   | 102.4% | 4   |
| 四半期純利益 | 170   | 108.3% | 12  | 127   | 108.0% | 9   |

## &lt;連結概況&gt;…売上高及び各利益で過去最高を更新。

\* 損益計上期間が変更となった主な会社

|           | 当四半期 | 前四半期 | 理由                          |
|-----------|------|------|-----------------------------|
| 岩田屋       | 10ヶ月 | 9ヶ月  | 決算期変更による                    |
| バーニーズジャパン | 3ヶ月  | 9ヶ月  | 平成 18 年 8 月に全株式売却           |
| 伊勢丹ダイニング  | —    | 9ヶ月  | 平成 17 年 12 月末日に持分法適用関連会社へ変更 |

## ● 売上高…前期から 220 億円の増収

→伊勢丹単体は 76 億円の増収となりました。店舗別では浦和店が前期比 111.3%と引き続き好調に推移し、本店も大規模改装中にもかかわらず前期を上回ることができました。

→国内子会社は、静岡、新潟、小倉の 3 百貨店で 23 億円、昨年 11 月に横浜店をオープンしたクイーンズ伊勢丹は 9 億円の増収となりました。

→海外百貨店グループはシンガポール、マレーシアの好調と為替の影響で 53 億円の大幅増収となりました。

→損益計上期間変更会社では岩田屋が 136 億円の増収、一方でバーニーズジャパンと伊勢丹ダイニングで計 109 億円の減収となりました。

## ● 営業利益…前期から 6 億円の増益

→セグメント別の営業利益は、クレジット・金融業がシステム投資による経費増で当初計画通り 3 億円の減益となりましたが、百貨店業は売上が好調に推移したため 9 億円の増益を達成できました。

## ● 経常利益…前期から 13 億円の増益

→営業外収支の黒字幅が 6 億円拡大しました。特に金融収支は 1.9 億円のプラスと、前期のマイナス 3 億円から 5 億円の改善となりました。

## ● 四半期純利益…前期から 12 億円の増益

→昨年 12 月に伊勢丹トラベル株式の売却を行い、特別損失 2 千万円を計上しました。なおこの売却により伊勢丹トラベルは当第 3 四半期末に連結子会社から持分法適用関連会社へ変更となりました。

## 2. 業績予想について

(単位：億円)

|       | 連結    |       | 単体    |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|
|       | 予想数値  | 前期実績  | 予想数値  | 前期実績  |
| 売上高   | 7,710 | 7,600 | 4,510 | 4,442 |
| 営業利益  | 320   | 300   | 210   | 200   |
| 経常利益  | 330   | 309   | 220   | 216   |
| 当期純利益 | 195   | 187   | 135   | 131   |

## &lt;業績予想のポイント&gt;

連結、単体ともに業績は概ね予想通りに推移しておりますので、中間決算発表時の予想数値からの変更はありません。

なお、昨年 12 月に設立され連結子会社となった成都伊勢丹（中国）は、今春に開店を予定しており、当期の連結損益に与える影響は軽微であります。

以上